

日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会 定期安全レビュー分科会
第3回 PLM作業会 議事要旨

日時：2004年7月12日（月） 13:30～17:00

場所：(独)原子力安全基盤機構 第13, 14会議室

出席者：(敬称略)

委員 関村〈主査〉, 鈴木(雅)〈副主査〉, 中野〈幹事〉, 大木, 大畑, 岡村, 榎田(川江代), 坂本, 佐藤, 清水, 鈴木(貴), 寺田, 長瀬, 西田, 前田(克), 前田(宣), 池田(溝渕代), 下家(三牧代), 師 19名 (欠席: 金津)

常時参加者 岡本, 最所, 島, 斉藤, 橋倉, 藤井(大), 藤井(光), 前田(俊), 山口, 吉永
10名

発言希望者 小松, 中川 2名

傍聴者 青柳, 坂井, 中村 3名

事務局 太田

配付資料

- P6WG2-3-1 第2回作業会議事要旨(案)
- P6WG2-3-2 PLM標準策定に係るコメントとその対応(案)について
- P6WG2-3-3 海外状況の把握(IAEAの状況)
- P6WG2-3-4 PLM標準(案)の主な変更点について
- P6WG2-3-5 PLM標準(案)記載概要について
- P6WG2-3-6 原子力発電所の高経年化対策実施基準(案)
- P6WG2-3-7 今後の予定について

議事要旨

議事に先立ち、事務局より委員20名のうち代理も含め18名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。(遅れて他の1名の委員が出席)

1) 前回議事要旨確認

前回議事要旨について承認された。(資料P6WG2-3-1)

2) 人事について

藤井 大士氏(関西電力), 大久保 康志氏(九州電力)が委員に選任された。(中野幹事, 川江委員が退任)
藤井氏が幹事に指名された。(委員については分科会での承認手続きを必要なため、分科会での承認が前提。)
吉永 英一, 中野 守人, 岡本 庄司(以上, 関西電力), 島 晃洋, 山口 献(以上, 東京電力)の各氏の常時参加者としての登録が承認された。(櫻井, 藤井, 谷口, 横尾, 菊川の各氏は登録解除)

3) 標準作成にかかるコメントに対する対応について

中野幹事他より、第2回作業会およびその後の電子メールにて出されたコメントに対する対応案について、資料P6WG2-3-2により説明がなされた。主なやり取りは以下の通り。

- ・長期保全計画の実施に係る記載について
長期保全計画の実施については、(社)日本電気協会電気技術規程「原子力発電所の保守管理規程」(JEAC4209)に従い実施するとされているが、JEAG4209の具体的な節番号を示すべきとの意見が出された。
→具体的に記載する方向で検討していくこととした。
- ・技術評価手法の記載方法について
技術評価手法の記載方法について、以下の提案があった。
本標準においては、本文では技術評価を行う際に要求すべき事項を規定し、具体的な評価手法を規定することはしない。但し、附属書(参考)又は解説においてPLM先行プラントが採用した技術評価手法についての考え方をとりまとめ記載することとする。評価手法の仕様規定化は今後技術知見の体系的整理など周辺環境の整備を踏まえて実施することが必要である。
- ・技術知見の体系的整理など周辺環境の整備を行うことについて、今後の展開を具体的に示しておくべきではないか。
→技術知見の体系的整理など周辺環境の整備については、本標準作成の範疇を超えているものであるが重要な案件であるため、次回作業会で今後の展開を議論し、必要に応じて分科会、発電炉専門部会他に諮っていくこととした。
- ・附属書(参考)又は解説に記載する技術評価手法の考え方について

先行プラントが採用した技術評価手法の考え方の記載については、PLM作業会の傘下に参加希望者で構成するサブWGを開き、そのサブWGで検討された記載案をPLM作業会に付議していく形にしてはどうかとの提案があった。

→サブWGは、PLM作業会メンバー全員に参加を呼びかけた上で、テーマごとに希望者を募り実施していくこととした。

- 最新知見及び運転経験の調査期間について、先行PLM実施プラントの調査期間との連続性を図ることが規定されているが、本標準策定後に初めてPLMを実施するプラントについては、本標準に基づき実施した先行プラントがないため、調査期間の設定の際に問題が生じる可能性がある。移行措置の扱いを明確にしておくべきではないか。

→移行措置の扱いを記載することとした。

- 考慮すべき経年変化事象を抽出するフローチャートが必要でないかとの意見があった。

→具体的な抽出方法を示すフローチャートのようなものを記載する方向で検討することとした。

4) 海外状況の把握 (IAEAの状況)

西田委員より、IAEA発行の高経年化対策に関する書類の例として、資料P6WG2-3-3によりTechnical Report Series No.338 “Methodology for Management of Ageing of Nuclear Power Plant Components Important to Safety”の概要が紹介された。

IAEA発行のドキュメントについては、更に新しく発行されているものもあり、他の書類についても調査し、検討すべきとの意見が出され、調査・検討を継続することとなった。

5) 標準案の内容検討

中野幹事より、資料P6WG2-3-4により第2回PLM作業会に付議された3.2節までの標準案に対して、主な変更点が説明された。また、岡村委員より、P6WG2-3-5により3.3節以降の標準案の概要が説明された。標準案に対するコメントは以下の通り。(標準案(資料P6WG2-3-6)については、配布のみ)

- 現状の標準案は図表などが少ない。

→今後、随時追加していくこととした。

- 「本文3.2.4考慮すべき部位・経年変化事象に対する技術評価」では、健全性評価の一般的な考え方(点検結果に基づく評価と解析結果に基づく評価があること等)を追記すべきではないか。

→一般的な考え方を追記することとした。

- 「本文3.2.3考慮すべき部位・経年変化事象の抽出、3.2.4考慮すべき部位・経年変化事象に対する技術評価」は体系だった説明になっていないため、記載を見直してほしい。

→記載を見直すこととした。

- 「附属書(参考)3.2健全性評価の例」では、例のみが記載されているため、前書きを追記し補足してほしい。

→前書きを追記することとした。

- 「附属書(参考)3.2健全性評価の例」では、技術評価手法の考え方を充実させてほしい。

→今後、サブWGで詳細な検討を進めながら、充実させていくこととした。

- 先行プラントの耐震安全性評価報告書では、煩雑な構成となっていたため、本標準の中で、今後のプラントの耐震安全性評価報告書がわかりやすいものになるよう検討してほしい。

→今後検討していくこととした。

6) その他

- 標準案に対してコメントがあれば随時、電子メール等にて事務局に送付することとした。

- 資料P6WG2-3-7により、今後のスケジュール案が紹介された。主査より第5回分科会(平成16年12月予定)後を目途に、発電炉専門部会及び標準委員会に中間報告をすべきとの意見があり、その方向で作業を進めることとした。

- 次回PLM作業会は平成16年9月中旬を予定するが、具体的な日程については事務局にて調整の上、別途連絡することとした。

- 次回PLM作業会(平成16年9月予定)までに、サブWGを複数回開催し、先行プラントが採用した技術評価手法の記載方法を検討し、その結果を作業会で検討することとした。

以上